

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 003	提案機関名 (一社)神奈川県園芸協会
要望問題名 ナシの芽枯れ症状の原因究明と対策について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 本年3月、横浜市及び川崎市のナシ園において、豊水・筑水・香麗の長果枝が、芽出し前に、芽が枯れる症状が現れた。 同一品種の短果枝や上記以外の品種については、特に芽枯れ症状は発生していない。 上記品種の長果枝に発生した原因と今後の対策について、気象状況及び生育ステージ、また樹体(特に結果枝)栄養の観点、秋肥などの施肥体系の見直しの観点から研究していただくことを要望したい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	企画経営部、生産技術部果樹花き研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) XI-2 (3) 県内の気象状況の傾向と気象災害等の関係性の解明 エ 地球温暖化に対応したシミュレーション技術の開発 (オ)ニホンナシの耐凍性評価およびシミュレーション技術の開発			
対応の内容等 ナシ発芽不良の発生原因は秋冬季の高温による低温要求量不足や耐凍性低下に伴う凍害とされています。長果枝に発生が多いことが報告されており、花芽分化時期が遅いことや耐凍性が低いことなどが影響していると考えられています。 当所のナシ圃場で発芽不良発生状況を調査したところ、現地での報告と同様に‘豊水’や‘筑水’‘香麗’‘新高’などで小花数の減少や花芽の枯死症状が確認され、長果枝に発生が多い傾向でした。 品種間差が大きく、各品種の低温要求性と発芽不良発生率との間に明確な関連性が見られなかったため、各品種の生育ステージごとに耐凍性評価等を実施して原因究明に取り組みます。 さらに、今後の温暖化進行に伴い発芽不良が増加することも予想されるため、発生予測や温暖化進行時のシミュレーションにも取り組みます。 また、農研機構等の研究により、短果枝利用や施肥時期の変更などが発生軽減に有効との報告がありますので(備考欄)、現地における当面の対策として導入をご検討ください。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考 ニホンナシに発生する発芽不良の発生要因と対策(農研機構果樹研究所等、平成27年2月作成)			